

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 4月 8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	467480017
法人名	有限会社 ファースト・ケア
事業所名	グループホーム いこい
所在地	鹿児島県出水市高尾野町大久保1432-1 (電話) 0996-82-5537
自己評価作成日	令和3年2月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様を尊重し、自宅で生活されていたリズムを崩さぬよう利用者様一人ひとりが自分の役割を持って自分らしく生活できる喜びを実感できるようご家族様と協力・連携をとり、楽しく暮らせる支援ができるよう心がけています。
 ・中庭に季節の花を植えたり、畑を作り、旬の野菜を収穫し、料理の材料にし食事に提供しています。
 ・ホーム外には、桜の木やあじさい・梅の木・みかんの木があり、花見や日向ぼっこ、外の食事を楽しんでいます。
 ・コロナ禍で、外出自粛生活が続く中、出来る事を見つけ、笑顔と思いを忘れず、入居様が楽しく暮らせる支援が出来るよう職員一同、心掛けています。

ホームは幹線道路から中に入り、周囲には住宅や畑等が混在した閑静な地域に位置し、ホームの裏手には肥薩おれんじ鉄道が走っている。敷地内併設の同法人のデイサービスは現在休止中であり、利用者間の交流の場が少なくなっている。

「いつまでも こうして いたい いこいのば」として設立されたホームは、人間性を尊重し、公平・平等な介護を行うという法人理念と、利用者のペースで地域の一人としての架け橋になれるよう支援したいというホームのケア理念を掲げ、職員はこの理念を日々意識しながらケアの実践に繋げている。管理者は利用者だけでなく家族をも含めての支援、利用者にとって対等な支援を常に考えて理想を高く暮らしの支援に取り組んでいる。また、「24時間ライフシート」を作成して利用者毎に日課・本人の意向・できること・必要な支援等を把握し、介護計画に反映させて利用者主体の支援に努めている。

地域との交流、馴染みの家族・知人等との面会、外出、運営推進会議の開催等がなかなか実践できにくい現状の中で、少しでも実現できる方向へ検討して工夫し、職員が一体となって取り組んでいる。管理者は働きやすい職場環境づくりのために職員間のコミュニケーションが円滑にできるよう工夫し、また希望休・有給休暇の取得、職員間の勤務交代、積極的な研修会への参加など、職員のスキルアップ、サービスの質の向上等に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念とケア理念があり、食堂・トイレ・休憩室に掲示してあり、職員はそれぞれの利用者に応じて理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	法人とホームの理念は毎日目に付く場所に掲示することにより、職員は意識して振り返りながらケアの実践に繋げている。毎日のミーティングや勉強会の中で理念を共有し、法人及びホームの評価も6か月毎に実施されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の社協主催のボランティアズパーティーに参加や近隣への散歩、買い物など出掛けていたが、新型コロナウイルス発生の為、ホームにて自粛している。	自治会には入っていないが、自治会長・民生委員の来訪、年1回の地域の清掃への職員参加等を通して、地域との円滑な交流に努めている。現在は積極的な関係づくりが難しくなっているが、近隣から野菜や新聞紙の差し入れを頂くなど触れ合う機会が得られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実習生の受け入れや、小・中・高校生のサマーボランティアの受け入れを実施していたが新型コロナウイルス発生の為、受け入れ出来ておらず。地域の清掃作業等、コロナ対策をした上で職員のみ参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当職員・自治会長・社会福祉協議会職員・家族代表・当施設関係者の参加を得て換気やパーティション等コロナ対策を行い、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、ヒヤリハット事例等を報告し意見交換を行っている。協議された内容は職員に周知し業務の改善やサービス向上に活かしている。コロナ感染予防の為、利用者様は参加出来ない。	会議は現在も2か月毎に30分程度の短時間で開催しており、家族代表は1人とするなど少人数参加になっている。活発な意見も出され、職員はミーティング等を通して協議・検討を行い、サービスの改善に繋げている。職員の勉強会を併せた研修報告では、資料を市や社協へも渡して情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会など参加し、施設現状の報告やケアサービスの取り組み等について意見交換しながら協力関係を築いている。電話連絡や市役所へ出向く事もある。	新型コロナの影響により、以前より市へ相談等の為に出向く機会が増え、担当者との連携が深まっているように感じられる。市やグループホーム協議会等の研修会はリモート開催もあり、可能な形態で参加して情報交換を行い、協働関係を築けるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回は身体拘束委員会を開催し高齢者虐待の勉強会を行い、知識の向上を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化のための指針」を作成しており、職員に対してはミーティングや2か月毎に開催される接遇委員会を通して意識付けを図っている。不適切な言葉遣いは職員間で注意し合い、日中の施錠は行わず見守りや寄り添い・対話に努めることで安定を図り、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や毎月のミーティングで利用者一人ひとりの状態等、職員全員で確認し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう勉強会を計画している。個々の必要性を関係者と話し合い、必要である場合は、支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、利用者様とご家族に説明し家族側の不安や疑問点を尋ねて理解・納得を図っている。解約時は次のサービスが不安なく受け入れる様に配慮している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様に何かあった時は、すぐに家族に連絡し、ご家族の意向等確認しながら対応している。訪問時に入居者様の状況を確認するよう心がけている。運営推進会議でもご家族等の意見を聞き実施するよう努めている。</p>	<p>意見や要望については、利用者からは日頃の会話・表情等を通して、家族からはリモート・居室の窓越しの面会・電話・タブレット等を通して把握するように努めている。家族へはホーム便りと一緒に写真を同封したり、電話で利用者の近況を伝えるなど、工夫してお互いの信頼関係を構築している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見は随時聴けるように管理者・主任が立ち対応している。職員会議などで情報共有し、改善に向けて実施している。スタッフ間の申し送りノートも活用している。管理者会議でも意見を出し合い共有している。</p>	<p>管理者及び主任は、日頃から職員が気軽に話せるような職場の雰囲気作りに取り組んでおり、得られた意見や提案等は職員間で協議して運営やサービスの改善に繋げている。資格取得のための研修等は勤務として取り扱うなど、バックアップ体制が整備されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>統括が常勤しており、必要時に応じて管理者は相談し、代表者に伝え報告の体制としている。各職員の希望も考慮し勤務体制を整え働きやすい職場づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>誰でも参加できるよう職員ロッカールームに研修案内を掲示し、コロナ禍で研修は減ったがリモート研修に参加している。職員が主体となって毎月の勉強会を開催し、全職員のケアの向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加盟している。新型コロナの影響で会合や研修が減ったが、リモート研修に参加し、意見交換や情報の共有を行い交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の生活状況を知るために自宅訪問やケアマネジャーからの情報提供書など確認し、安心して生活を送って頂く為に好きな事や苦手な事をご本人やご家族に伺い、入居より以前の生活を切り離すことなく、これまでの生活が継続できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に自宅訪問し、ご家族が困っていることや要望などに耳を傾け、解決に向けて一緒に取り組んでいく中で、信頼関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者様やご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案をするように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常の家事など、入居者様が出来る範囲で声掛けし、参加して頂いている。一緒に家事など行うことでお互いに支え合っていることを実感できる場面となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で中々面会が出来ない為、生活の様子、行事等の写真を個々に作成し、ご家族へ送付している。電話時には、普段の様子など報告し、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお友達・ご兄弟が面会に来られ良い関係性が築けているがコロナ禍の影響で面会が制限されてからは、電話や手紙など利用し関係が途切れないよう支援している。	現在は墓参りや外出・一時帰宅等はないが、家族や知人の面会が多く、電話の取り次ぎや手紙の返事を一緒に書くこともあり、これまでの関係が途切れないように支援している。行きつけの美容室があった利用者にも、現在はホームの職員が家族の了承を得ながらヘアカット等の同行で対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や感情の変化を理解した上で食席や居室の場所も考え、お互いの関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活する場所が変わっても気軽にご家族からの相談を受ける関係性を大切にしている。写真を届けたり、ご家族への電話で状態を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を会話や表情・しぐさから把握し、ご本人の立場に立って考えるようにしている。把握した内容は、申し送りノートを活用し、職員間で共有している。	利用者の思いや意向は日頃の会話・表情・サイン等で把握し、利用者のペースで寄り添うという理念に沿った暮らしの支援に取り組んでいる。うまく伝えられない利用者場合は、家族の意向も大切にしながら聴取して、介護計画へ反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴など可能な限りご本人・ご家族やケアマネージャーから聞き取りを行い、情報は職員全員が共有し、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間ライフシートを一人ひとり作成している。職員全員が共有し、日常の支援に生かせる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に希望を聞き取りケアを行っていく中で本人がより良く暮らすための課題やケアのあり方を毎月1回行うミーティングにて話し合い、かかりつけ医からの助言も頂き、介護計画に反映させ作成している。	利用者及び家族の思いや意向を尊重し、担当職員や協力医療機関の医師等の意見・助言を基に、本人らしい暮らしを実現するために現状に即した介護計画を作成している。計画は6か月毎に見直して年1回更新しているが、状態変化や入退院等の際には関係機関と連携を取り、随時見直して再作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況、精神状況、認知症状等の気づきを個別記録に記入し全職員で情報を共有しながら介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの個性や特徴を理解し、必要に応じて、病院受診や外出等、状況に合わせた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握するよう努めており、本人が持てる能力を発揮し豊かな生活ができるよう支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望される医療を受けられるように主治医と連絡を取り合い受診や訪問診療などで情報提供等行い適切な医療を受けられるように支援をしている。	利用者の3分の2は協力医療機関を主治医としており、月1回往診を受けている。3分の1は十分な連携体制の下に入居前のかかりつけ医を継続して受診し、受診のための同行はホームと家族が協力して支援に努めている。夜間は主治医から電話による指示を得られるなど、24時間医療連携体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師資格を持つ職員に相談し、日常の健康管理に努めている。判断に迷う時は、かかりつけ病院へ連絡し報告・相談し、必要時は受診している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院に際しては、地域医療連携室を通じ、情報交換を行っている。入院中のカンファレンスも可能時は出席している。退院前カンファレンスに参加し、連携に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>介護更新時期のタイミングで重度化に向けたご家族の意向を確認し方針の共有に努めている。状態の変化に伴い、ご家族関係者との連絡を密にとり相談を重ね、対応を検討している。</p>	<p>入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」について説明し、「緊急時事前確認書」の様式も準備されている。看取りは現在行われていないが、研修は実施しており、今後は職員の資質向上に対して取り組み、医療連携の方法や看取り学習を深めるなど、看取りの体制を検討したいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、定期的に対応方法について確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>隣接のデイサービスと合同で消防署指導のもと行っている。災害マニュアルをもとに水や食料等備蓄し、定期的に見直し、確認を行っている。</p>	<p>年1回は消防署立ち会いの下で夜間想定避難訓練を実施し、もう1回は自主訓練を実施している。現在は運営推進会議と一緒に訓練が実施できず、また地域住民の協力も得られないが、自治会長・民生委員の協力を得ながら防災への意識を高めている。備蓄は3日分程度、チェックリストにより担当者が確認・管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の利用者に合わせた言葉かけに努めている。指示的な表現ではなく、依頼や提案の声かけを心がけている。	マニュアルを作成して年1回、年度初めに研修を実施して理解を深めている。「個人情報利用同意書」について説明し、お便りに掲載する写真等についても家族の同意を得ている。プライバシーに関する同意書は作成していないため、今後検討したいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関りで、本人の希望に寄り添えるように努めている。言葉でうまく表現できなくても表情や全身での反応をキャッチし、本人の希望や思いをくみ取りようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間ライフシートを作成しており、一人ひとりの生活リズムを大切にしている。日々の暮らしが、その人らしいものとなるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	各々で身だしなみのポイントが異なる。各々利用者様に応じた準備や声かけをしている。(衣類を選ぶ、眉をかく、髭剃り等)		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、茶碗洗いや片付け、食台拭きやお盆拭きは利用者様の日常になっている。誕生日には好きな食べ物を聞き、行事の時は季節の料理やお菓子を作りをしている。畑の野菜も収穫し料理に使用している。	利用者の希望を取り入れて、ホームにある食材を用いて利用者と一緒にできることを支援しながら調理している。旬の野菜や差し入れも活用し、行事食・手作りおやつ・弁当持参の花見など、食事が楽しみとなるように工夫し、職員も同じ食事を一緒に食べている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はそれぞれに合った食事形態で提供している。食事量や水分量は記録し、全職員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの実施をしており、義歯使用者は就寝前に義歯洗浄剤を使用している。必要な方は歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄委員会を設けており、24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンを確認し、利用者様に応じた誘導、声かけを実施している。トイレで排泄できるよう自立に向けた取り組みをしている。	排泄チェック表を活用して利用者毎に排泄パターンを把握し、さりげない誘導に心がけ、排泄を支援している。便秘予防のため運動・カスピ海ヨーグルトの飲用等により、薬に頼らずに排泄の自立を目指せるように介護計画に反映させて改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、各々の便秘の原因を探り、水分補給・食事の工夫や適度な運動を実施している。必要時は主治医へ相談し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を実施している。入浴する事が楽しくリラックス出来る時間であるように、1人ひとりの希望に添えるよう、無理強いせず声掛け等行い支援している。	利用者の希望や心身の状態・必要性に応じて、利用者本位の支援に努めている。着替えは本人が準備し、石鹸等は共用とし、入浴後は保湿に心がけ、入浴剤も使用するが季節に合わせてゆず湯・ぼんたん湯を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態を把握し、個人のリズムで起床して頂いている。居室やソファーにて安心して休息して頂けるような環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬が分かるように処方箋ファイルを作成している。服薬変更時は日誌等にて申し送り全職員が情報を共有出来るように努めている。服薬ミス・落葉がないよう職員で二重チェックし服薬管理表をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動等では好んで出来る事、意欲的に活動して頂けるような声掛けをし、その他、行事活動等で気分転換を図り、他者と楽しみを共有し生活を楽しく出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で日常的な外出等自粛していた。少しずつではあるが少人数でのドライブ等計画し、支援を行っている。	現在、これまでのような外出支援は難しくなっているが、利用者の心身の状態や天候を考慮しながら、敷地内の散歩・園庭での日光浴・菜園の手入れ・市内のドライブ等を支援している。外出の機会が少なくなったことによるストレスが最初は見られたが、家族との電話等により落ち着き、気分転換を図れるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金の管理は、ご本人・ご家族との相談で実施している利用者様もいる。管理が難しい方は施設で預かり利用者様に応じ支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はいつでも受け付ける。希望時は特別な事情がない限りはいつでも対応している。コロナの影響で、面会制限ある為、テレビ電話を活用している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気を大切に、調理している姿が見え、音や香りなど生活感のある空間づくりに努めている。季節感を楽しめるよう室内の飾り付けや、中庭には花や野菜があり季節を楽しんで頂けるよう工夫している。</p>	<p>リビングは明るく、利用者は好みの場所で家庭的な雰囲気を感じながらゆったりとくつろげる環境となっている。季節の花やカレンダー・行事の貼り紙・写真・手作りの作品等が飾られ、四季が感じられるように工夫されている。中庭には野菜や花が植えられ、昨年亡くなったペット犬の墓もあり、利用者は各々思いを寄せている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室は個室で自由に模様替えでき写真など飾れるようになってきている。生活動線等には気をつけながら、ご本人のひとつの居場所として過ごせるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時、ご自宅で使われていた家具、馴染みの物を持ち込んで頂き、ご本人様が居心地よく安心して過ごして頂けるよう、居室の環境作りを工夫している。</p>	<p>居室の窓は腰高窓で、家族との面会の際には窓越しに顔を合わせて時間を共有している。居室にはエアコン・ベッド・クローゼット・テーブル・椅子等が備えられており、利用者は馴染みの物を自由に持ち込み、本人のペースで居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご本人の身体状況に合わせた居室での家具の配置、ベッドの位置を考え安心して生活ができるよう環境整備に務めている。利用者様の状態に応じ福祉用具を取り入れている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない